

ワケギの初夏どり栽培用の良質種球生産技術

- ◆3月～5月に植えつける初夏どり栽培では、充実肥大不足の種球を掘り取り植えつけることから、発芽、生育の不揃いが生じ問題となっている。
- ◆そこで、3月に充実肥大した種球を得るための生産技術を開発する。

りん茎の肥大に有効な光源

白熱電球（R（600～700nm）/FR（700～800nm）比：約0.7）が最適である。

電照時の光強度

PPFD（光合成有効光量子束密度）は、 $1.5\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 必要である。この条件は地表面からの高さ1.5mに電球（90W、25球/a）を設置すると得られる。

暗期中断時間

15時間の長日処理で効果が高い（電気代2.4万円/a）が、午前3時～6時の3時間の暗期中断でも同等の効果が得られ、深夜電力の利用が可能となる（電気代4千円/a）。

暗期中断の開始時期 掘り取りの80日前とする（掘り取りは3月中旬）。

栽植密度

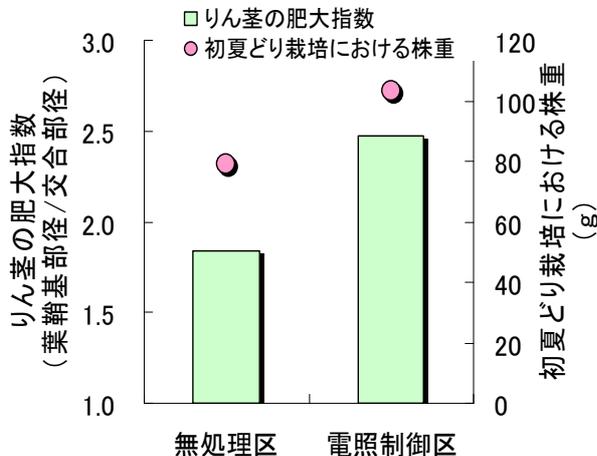
種球収量とりん茎肥大から834株/a（条間30cm×株間40cm）が可能となる（従来の種球生産667株/a）。

【りん茎の肥大状況】



無処理区

電照制御区



葉鞘基部径と交合部径

種球生産における掘り取り時のりん茎肥大と植え付け後（初夏どり栽培）の株重

※電照制御区：上記の枠内の条件で栽培した区

【初夏どり栽培の生育】



無処理区 電照制御区